

三重県図書館協会報 2023年3月29日発行

協会だより

No.74

目次

「学びの場からつながる場へ」	1
トピックス～図書館をめぐる話題から～	2
令和4年度図書館活性化推進事業のご報告	4
令和4年度全国図書館大会三重大会を契機とした図書館振興事業（新時代を拓く図書館振興事業）のご報告	5
研修会のご報告	6
新館案内	8
ブックエンド	8

編集・発行 三重県図書館協会＝津市一身田上津部田 1234 三重県立図書館内 電話：(059)233-1181

「学びの場からつながる場へ」

亀山市立図書館がJR亀山駅前に移転拡充

亀山市立図書館 井上香代子

静かな館内。ピーンと張りつめた空気に甘い香りが漂っている。一階エントランスには、お祝いの花たちが堂々と胸を張っている。開館前夜は、緊張感と期待感で胸がいっぱいになった。「開館したら、泣いてしまふんじゃない？」と温かく見守ってくれた職員の言葉が浮かんた。

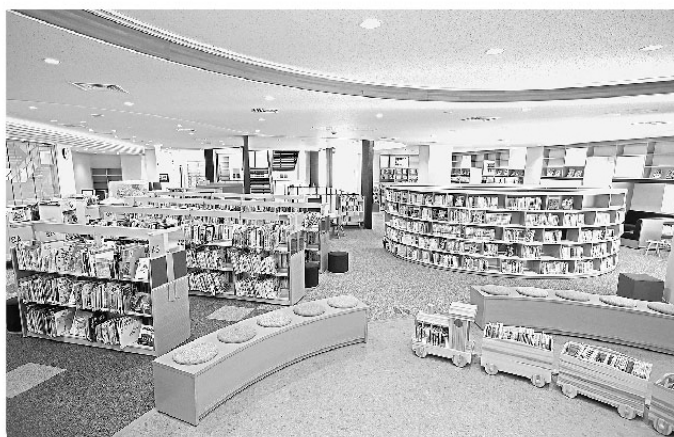
平成28年の春、亀山駅前再開発事業に向けて図書館移転の議論が始まった。市教育委員会では、平成28年10月「亀山市立図書館の今後の方向性」を定め、基本理念を「学びの場からつながる場へ」と示した。平成29年7月「亀山市立図書館整備基本構想」で亀山駅前が適地であるとした。平成30年5月「亀山市立図書館整備基本計画」を策定。基本理念を構成するコンセプトを「知る（ち）・学ぶ（ま）・楽しむ（た）」と表現した。「衢（ちまた）」は、古来より交通の要衝として栄えた亀山の地で、様々な情報が集まり、その情報をもとに人と人が語らう場を

イメージする。市の総合教育会議や教育委員会での議論を重ねつつ、小中学校の保護者や高校生、まちづくり協議会などのご協力によるアンケート調査や市民ワークショップ等を開き、市民の方々が参画できる機会を設けてきた。そして積み重ねた

思いを設計事業者に委ねた。令和4年の秋、施設の引き渡し後は、図書資料や機器の移動、自動貸出機等の新しい機器の設置、設定、動作確認、研修のほか、精密配架に蔵書点検、新刊選書や式典準備など、教育委員会職員の総出で、経験したことのない慌ただしい日々を送った。約7年の時を経て開館した。

開館イベントでは、一階文化情報プラザで園児や児童の合唱のほか、生徒による吹奏楽の演奏を行った。図書館内で音を出すことには、かなり勇気も必要だったが、コロナ禍で発表の場がなかった子ども達の晴れ晴れした表情を見て涙が出た。やつてよかった。ここまで来れた。様々な不安がスーッと消えた。「開館したら泣いてしまふんじゃない？」の答えの一つも見つかった。

さあ、次は私たち図書館職員が試されるステージ。図書館としての役割をしっかりと果たしながら、図書館を核とした賑わいの創出としてまちづくりの寄与できるよう前進したい。「学びの場からつながる場へ」を基本理念に、成長する有機体として、亀山市らしい図書館に市民のみなさまに育てていただき、私たち図書館職員も育っていききたい。



館内（2階）の様子

トピックス

図書館をめぐる話題から

種、貸します

返却は花が咲いたら

『たね』の図書館

三重短期大学附属図書館

中澤利美

「種の図書館」とは、図書館の持つ貸出、返却という機能を利用し、植物の種を貸出、育てて採取した種を返却してもらうという取組で、以前に愛知教育大学附属図書館の『種』プロジェクトを拝見し、いつかできたらと温めていた企画でした。サイト上でのオンライン企画だけでなく、卒業までに実際に楽しんでもらえる企画も行いたい、そして、カーボンニュートラル等環境問題にも関心が高まっている今だ！と開催することにしました。

3月に卒業を迎える2年生も参加できるよう、その間に種の採取ができるひまわり、コスモス、フウセンカズラ、ルッコラ、バジルの種を用

意思しました。

今まで図書館に関心がなかった人にも図書館に関心を持つてもらえるよう育て方の本も一緒に展示しました。

どの種にしようか楽しそうに選ぶ姿が見られ、参加者の中には、ひまわりを生まれて初めて育てると話してくれる学生もいました。

今は、スタッフ一同、返却を楽しみに待つ毎日です。



育てたい植物の種を選びます



ポスター

システム更新に伴う
いなべ市電子図書館

開始について

いなべ市北勢図書館 伊藤千夏

4つの図書館を運営するいなべ市ですが、令和4年のシステム更新を迎えるにあたり、更新に合わせ電子図書館を開始することとなりました。電子図書館システムは図書館システムとの連携版、コンテンツ数は約1300点でのスタートでした。

協議開始から着々と話が進み、事前に導入準備として「一番時間がかかりますよ」と言われた選書の期間は2カ月弱。近隣の電子図書館導入館を参考に選書し、発注納品、いよいよ運用開始と思えば、まさかの半導体不足の影響により3カ月遅れの

スタートとなりました。問題なく運用できるのかという不安の中、時期が定まらないというさらなる不安。それでもしなければならぬのが周知のための広報活動です。こちらは市の広報誌担当課が「ほんとの出会い」という素敵な特集を組んでくれたこともあり、スムーズに電子図書館を周知することができました。利用促進のため、図書館利用者カード申込の電子申請も同時期に開始し、開始後はイベントや図書館見学の場で電子図書館の紹介を行っています。



いなべ市電子図書館



いなべ市情報誌「Link」での特集

電子書籍というと、図書館で本に囲まれ働く身にとっては「紙の本の方が読みやすく愛着があるよね。」と言いたくなりますが、電子だからこそ利用のしやすさがあることは事実。紙か電子かということではなく「多様な読書の機会の提供」として捉えると良いと思います。

運用を開始した以上、利用促進や紙の図書との調整など新たな課題はありますが、一人一台のタブレット学習を抵抗なく受けている小中学生をみれば、デジタル化により電子図書館整備が図書館業務に追加されることも必然的であると感じます。まだまだ手探り状態は続くそうですが、常に利用者の方に最善の方法を提供できるよう努めていきたいと思っています。

中高生による

読書推進活動

菰野町図書館 伊藤優太

菰野町図書館では子どもの読書活動を推進するために、中高生の活動グループ「リトルライブラリアン」(以下LL)の取り組みを行っています。同年代の子どもたちの読書リーダーとして本の楽しさや図書館について知ってもらうことを目的に、現在29人の中高生が共に活動しています。

活動内容は主に子ども向けの図書館イベントの企画と開催で、今回はその中から2つご紹介します。

1つ目は「POPづくり」でLLがおすすめする本を手作りのPOPで紹介します。特設コーナーを用意して、毎月さまざまなテーマで本を紹介しています。11月は「読んで楽しくなる本」、12月は「ちょっと奇抜なテーマで「読んだ手が震える暗い本」を紹介しました。そのテーマが刺さる人には「見て沸き立つワクワク」を、普段手に取らないような人には「未知の楽しさを知るおもしろさ」を体験してもらえ面白いコーナーになっています。

ナーになっています。

2つ目は「スカベンジャーハント」という図書館で行う謎解きイベントです。図書館や本に関係するクロスワードを渡された参加者は、チームメンバーと協力して図書館を探索しながら散らばったヒントを集めてクロスワードの完成を目指します。イベントの企画、クロスワードの作成から当日のスタッフまで、すべてLLが自分たちで考え、実行していました。



スカベンジャーハントの様子

現在は誰かと自分の好きな本やジャンルについて語り合う「読書会」、一年間で作ったPOPの総選挙、その他様々なイベントを企画中です。

読書の楽しさを知る入口となるように、本が好きな人がより本を好きになれるように、本を、図書館を通じて誰かと「つながり」を持ちながら楽しさを共有できるように、各自がいろいろな思いを込めて活動に取り組んでいます。今後も菰野町の子どもたちが本を好きになってくれるよう活躍してもらいます。



POP 総選挙の様子



POP 総選挙のポスターづくり

令和4年度 図書館活性化推進事業のご報告

令和4年度の当協会による図書館活性化推進事業では、2館が助成の対象となりました。それぞれの館から、事業のご報告をいただきました。

①「Happy Anniversary 25!!」に向けて

伊勢市立小俣図書館 谷口康雄

令和5年4月1日、小俣図書館は開館25周年を迎えます。そこで、3月から来館者参加型の関連イベントを実施し、25周年の一年が特別な一年になるよう、いろいろな行事を計画しています。その中で、子どもをメインターゲットとした企画を助成金事業として応募させていただきました。

イベントのスタートは、小俣図書館の誕生日をみんなで祝う「Happy Birthday! おぼたとしょかん」です。子どもたちと一緒に大きなバースデーケーキを作成し、誕生日となる4月1日にお誕生日会を行います。また、「ビブリオバトル」

では、近隣の中学校・高校などへ参加を呼びかけ、YA世代を取り込んだ大会にしたいと思っています。子どもたちに夏の楽しい思い出を！と企画した「なつまつり」は、図書館の貸出増や非来館者の誘致にもつながられるよう、貸出連携イベントとして計画しています。さらに、講師をお招きし、講演会やワークショップも開催予定です。

開館25周年となる小俣図書館が、人と本が出あう図書館となり、図書館利用者のみなさんの笑顔が溢れる場になれるよう、スタッフ一同、感謝の気持ちを込めて取り組みたいと思っています。

②「図書館で学ぶ

茶道文化の

『おもてなしの心』

鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部
附属図書館 細井和彦

11月になると附属図書館から見える桜も休眠し、暖かいお茶を一杯入

れてホッと一息つきたくなってくる。ちょうどその時、附属図書館の展示コーナーを使用して、「茶」に関する図書と鈴鹿抹茶の資料展示を開始することができた。来館する学生は図書の展示や企画展示を素通りすることが多い。ところが、今回の展示は、学生の足がピタリと止まった。鈴鹿大学と連携協定を締結している「太門通商」様の提供を受けて、鈴鹿抹茶の「一人飲みセット」と伊勢型紙をレイアウトに使用した鈴鹿抹茶「一回飲みきりパック」、くわえて「茶道の基本的な道具」という現物展示で目を引くことができた。抹茶茶碗やなつめには、直接触れることもできた。「茶」の図書を手に取る学生諸君もいた。



展示の様子

メインイベントの講演会は11月30日に開催した。講師の増井宗広裏千家教授に、「おもてなしの心 茶事と茶会」と題した講演をしていただいた。講師の茶道との出会い、茶会に参加して茶の世界の面白さを知ったこと、そして茶事との出会いが茶道にのめり込むきっかけになったことが、スライドを使用しながら語られた。あつという間に楽しい講演の時間が流れ去った。講演の後に、いつもは静かな図書館に感動と感謝の拍手が響いた。後日、講演会の感想文の表彰式を開催して、一連の図書館活性化推進事業の企画が締めくくられた。

末尾になりましたが、事業費を提供してくださった三重県図書館協会に深謝致します。



講演会の様子

令和4年度

全国図書館大会三重大会を契機 とした図書館振興事業(新時代を 拓く図書館振興事業)のご報告

令和4年度の当協会による全国図書館大会三重大会を契機とした図書館振興事業のうち、新時代を拓く図書館振興事業では、2館が助成の対象となりました。それぞれの館から事業のご報告をいただきました。

①「図書館で

健康づくり」

いなべ市員弁図書館 伊藤弘樹

員弁図書館は一年前に現在のいなべ市役所員弁支所に移転しました。国道沿いで駐車場も広い場所なので、幅広い年代の皆様にご利用いただいています。なかでも高齢の方々は健康に関する関心が高く、健康維持に関する書籍の利用数も多くなっています。高齢化社会において、地域の皆様が健康で元気に過ごすためのツールの一つとして、図書館がその役割を果たせたらと考えます。今年

度員弁図書館では、「いなべ暮らしの保健室」と連携して、「図書館で健康づくり」をテーマに様々な活動を行いました。

〈具体的な活動〉

- ①期間ごとに「いなべ暮らしの保健室」おすすめの書籍コーナーを創設。
 - ②館内に血圧計を置き、誰もが気軽にできる健康チェック設備。③6月『在宅医療』講演④夏休み工作「身近な物で聴診器を作る」⑤8月『フレイル予防』理学療法士の健康チェック。⑥9月管理栄養士による「フレイル」予防講座。⑦12月「終活を考える」講演。⑧3月「認知症」講演(予定)
 - どの講演会も申込人数が多く、参加者の皆様に好評でした。この機会に初めて図書館を訪れ、その後利用を続けてくださる方もいます。
- 図書館が地域社会に貢献できる手段は数多あると思いますが、新たな

アプローチとして健康づくりに目を向けたことで地域のみなさまに喜ばれ、とても良かったと思います。



展示の様子

②津高周辺で

「マッピングパーティ」

県立津高等学校図書館 井戸本吉紀

令和5年1月21日(土)、「津高周辺マッピングパーティ!!」を開催しました。7人の生徒と講師3人に加え、見学者4人、教員2人が参加しました。

マッピングパーティとは、自分たちでまち歩きをし、見つけた情報をネット上の地図データベースである OpenStreetMap (OSM) に書き込んでいく行事。OSMは自由な地図データの作成プロジェクトで、地図の Wikipedia と呼ばれることもあ

ります。

通学路はお店もそれほどなく調査に時間はかからないと思っていましたが、じっくり歩くと様々なものが見えてきます。掲示板、消火栓、国土地理院地図にない建物、小道など…。普段歩いている道にも多くの発見がありました。

生徒からは「人により視点が違うのが興味深い」「これまで道を歩いているだけだったと感じた」「家の近くのデータも入力したい」などの感想がありました。また、講師からは積極的な調査と編集の姿勢を評価いただきました。

今後は、OSMをもとに記録集と地図を作成し、校内や自治会に配布します。記録集は図書館に寄贈し、地域情報のつくり方資料として活用いただく予定です。



まち歩き風景

研修会のご報告

第108回全国 図書館大会群馬大会

10月6日、7日に開催された、第108回全国図書館大会群馬大会(オンライン形式。動画配信期間…10月6日～11月30日)には、当協会の令和4年度全国図書館大会三重大会を契機とした図書館振興事業のうち、図書館職員の人材育成事業(研修等への参加)をご活用いただき、3館5名の方にご参加いただきました。その中から、皇學館大学附属図書館の藤原正憲さんに大会の様子をご報告いただきました。

第108回全国図書館大会群馬大会に参加して

皇學館大学附属図書館 藤原正憲

新型コロナウイルス対策等によりオンライン開催となり、その中から、第十一分科会「資料保存「いつの間に!」カビで慌てないために」について報告する。

最初に日本図書館協会資料保存委

員会委員長の眞野氏から、全国の図書館のうち約16%に虫害、約61%にカビ被害があり、コロナ禍で図書館の運営形態が変化しカビ被害が増えている状況が説明された。続いて、東京文化財研究所佐藤氏による基調講演「カビの基礎」では、カビは資料の劣化原因の一つで、資料に付着したホコリと資料(紙など)を栄養源とし、湿度が60%を超えると増殖するため、書庫内の清掃や湿度管理が重要となること、また、湿度には相対湿度と絶対湿度があり、湿度60%の場合でも気温が下がると湿度が上がって結露が生じ、カビ発生の原因となることなどが解説された。

その後、アジア経済研究所図書館、大東文化大学図書館、東京国立博物館の3館からの事例発表と一般財団法人環境文化創造研究所川越氏による実演「図書館の現場におけるカビ処置の注意点と予防」があり、カビ被害の発生の経緯から対策内容まで、それぞれ具体的かつ丁寧に説明頂き大変参考になった。

なお、研修参加前後に本館の集密書庫内で資料のカビ被害が発覚している。本学にとって貴重な資料である旧皇學館文庫をはじめ、洋装本、

和装本を問わず書庫各階の広範囲に被害が及んでいる。限られた予算と人員の中で対応に苦慮している状況にあるが、今回の大会内容を自館のカビ対策の参考とし、取り急ぎ対策を行いたい。

図書館職員基礎講座

比較的经验の浅い職員向けの研修である基礎講座を、10月6日に津市の三重県生涯学習センターで開催しました。「簡単な本の修理」をテーマに、図書館用品・各種諸製本タナカの田中稔氏を講師にお招きしました。この研修には31名の方にご参加いただき、その中から四日市市立図書館の大迫夏奈子さんにご報告いただきました。

図書館職員基礎講座に参加して

四日市市立図書館 大迫夏奈子

今回の研修では「簡単な本の修理」というテーマで、多様な種類の本の構造を学んだうえでどのような方法を用いて本を直すことが的確か、具体的な実践を交えて教えていただきました。

図書館での業務に日々携わるなかで、何度も繰り返し読まれる本の修理は欠かせないものであると同時に、長い時間を修理に充てることは難しい、という現実的な問題が実感としてあります。そのため、先生のお話でもありましたが、丁寧に時間をかけて直す本と、回転率を重視し簡単に手早く直す本の見極めも必要だという点に関して考えさせられました。



講師による実演

修理の実践では、参加者が持ち寄った修理に苦労している本を、先生が実際に普段使用している道具を用いて手際よく直していただきました。自館では普段使用していない修理道具も数多く見受けられましたが、特別な修理道具や材料を揃えるよりも身近で代用できるものを探して簡単にできるものから修理していくことが重要だ、とのお話に胸を撫で

しました。

今回初めて修理の研修を受講して、今まで自己流で行ってきた修理の基礎を学ぶことができ、大変有意義な時間でした。今後、活かせるところから取り入れていきたいと思っています。

図書館職員専門講座

ある程度の経験年数を経た職員向けの研修である専門講座を、1月20日にオンライン形式にて開催しました。「図書館におけるジャパナーチの利活用」をテーマに、国立国会図書館電子情報部電子情報企画課の近藤かおり氏と眞籠聖氏を講師にお招きしました。この研修には、9名にご参加をいただき、その中から、ユマニテック短期大学図書館の長谷川あゆみさんにご報告をいただきました。

図書館職員専門講座に参加して

ユマニテック短期大学図書館

長谷川あゆみ

今回の研修では、そもそもデジタルアーカイブとは、というところから説明してくださり、ジャパナーチ

チが様々な分野のデジタルアーカイブと連携し、日本の多様なコンテンツのメタデータをまとめて検索・閲覧・活用できることを丁寧に教えていただきました。



研修の様子

後半はオンライン上で演習も行いました。ジャパナーチの機能である「ワークスペース機能」を使い、各館がそれぞれジャパナーチのコンテンツを組み合わせ、ギャラリーを作りました。私も戸惑いながらも無事作成することができました。聞いているだけではなく、実際に使ってみることでより理解を深めることができました。まだほんの一部分にすぎないと思いますが、様々な活用方法があることを学ぶことができました。

これまで、ジャパナーチの存在は知っていても恥ずかしながら全く活用はできていませんでした。今回研修を受けたことで、レファレンスの幅が広がったと思います。またそれと同時に司書に求められるデジタル化に対応したスキルの必要性も改めて感じました。今後も積極的に研修に参加していきたいと思っています。

視察研修

先進的な取組を行っている図書館を視察し、見識を深める視察研修を、2月16日に実施しました。亀山市立図書館を視察したこの研修には、33名にご参加いただきました。参加された方の中から、三重県立図書館の田邊涼太さんにご報告をいただきました。

視察研修に参加して

三重県立図書館 田邊涼太

令和5年1月に新しく開館した亀山市立図書館の見学をさせていただきました。

綺麗な施設、新しいシステム、取り上げたいことは色々ありますが、

一番素晴らしいと感じたのは、この図書館のコンセプトがとても分かりやすく表れているところでした。

亀山市立図書館は、人と物が集まり、新しい賑わいやつながりを創る場所になることを目指しているそうです。少し見学させてもらっただけでも、開放感のあるフロア、亀山をイメージした楽しいで明るい施設作り、多くの人の意見を取り入れたという様々な設備、館内様々な所からも皆が行きたくなる、居ていいと思える、そんな図書館にしようという想いが伝わってきました。

こうした施設にしたい、というコンセプトをしっかり決める、そしてそれをカタチにして伝えるというのは本当に大変で難しい事だと思いますし、だからこそそれが伝わる亀山市立図書館は素晴らしいと思います。井上館長は「この図書館があるから亀山に住もう」と思わせる図書館にしたいと仰っていました。今回見学させていたでいて、この図書館はそれができる所だと感じました。今後どのような図書館になっていくのか、とても楽しみにしています。

新館案内



伊賀市上野図書館 青山図書室

伊賀市上野図書館青山図書室は、伊賀市の南部に位置する図書室です。令和4年3月22日に移転開館しました。

近鉄青山町駅から歩いて約3分、国道165号線沿いの青山北部公園に隣接した青山複合施設（アオーネ）内にあります。

建物全体は地上一階鉄骨造で、三重県産の木材を利用した明るく温かみのあるデザインで、図書室は落ち着いた雰囲気となっています。

同じ建物内には青山支所や地域包括支援センター南部サテライト、阿保地区市民センターがあることから、各種手続きや会議等で施設をご利用の際に、図書室にお立ち寄りいただく

き、本を読んだり、お気に入りの本を見つけて借りて帰る等もしていただくことができます。



伊賀市上野図書館青山図書室外観

図書室の蔵書冊数は約13000冊で、絵本コーナーでは靴を脱いで本を読めるスペースがあり、小さなお子さんと一緒に、ゆったりと本に触れていただくことができます。

窓際にある閲覧席兼学習席では、

ブックエンド

『驚愕！竹島水族館 ドタバタ復活記』

小林龍二／著
風媒社

津市芸濃図書館
岡副健次



「古い、汚い、金はなし」ないないづくしの地方の弱小水族館に廃館の危機が迫る。

「全くダメだからこそ、できることがいっぱいあるんじゃないか」逆転の発想で、今あるものを工夫して面白いものを次々と創り出し小さな水族館に大きな魅力があふれます。

「水の泡とは消えたくない！」お金が出ないなら知恵を出し、奇跡のV字回復を成し遂げた飼育員の熱意をユーモア溢れる語り口で描く。明日を生きる活力が湧いてきます。

景色を見ながら読書や学習を行っていただくこともできますし、室内には図書除菌機を設置していますので、安心して本をご利用いただくことができます。

また、伊賀市には青山図書室の他に、上野図書館と5つの図書室があり、各施設の本はそれぞれの施設に配送で取り寄せることができるため、身近な図書館で読みたい本を気軽に楽しめる体制を取っています。

ぜひ豊かな自然の中に建つ、新しいくなった青山図書室をはじめ、伊賀



絵本コーナー